

女性比率増へ最新機械 A—I導入し属人化回避

アサヒフレシジンは製造業の「3K（きつい、汚い、危険）」のイメージを取り払おうと、工場内の清掃強化や作業の自動化を進めてきた。製造業は女性社員が少ないとされるが、現在は従業員約60人のうち、およそ5割が女性

金属製品製造の遠藤製作所（燕市）は、ゴルフ用品の自社事業「エポンゴルフ」で、受注業務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を進めている。

光学顕微鏡、医療機器部品などを製造するアサヒプレシジョン（長岡市）は今年10月、約3千万円を投じて最新鋭の工作機械を導入。加工された部品をロボットアームで取り出すことができ、これまで人の手で行われていた作業が簡便化された。

今回導入した設備の操作も女性社員が担う。渡邊光子取締役企画部長は「人手不足の中、地元の人材を生かす必要がある。製造業は男性のイメージが強いが、環境を整えて払拭していくたい」と話す。

県内製造業

県内の製造業で最新技術を活用した省人化が広がっている。工作機械の導入を進めて働きやすい環境を整えたり、クラウドサービスの活用で受注業務を見直したりといった動きがある。また、製造設備の異音を人工知能（AI）が検知するシステムを開発する企業も。現場の人手不足が深刻化する中、生産性向上に向け摸索が続く。

(新道部・田中信太郎)

経済SCOPE
スコープ

省人化が拡大中

は、聞き間違いや情報の入力ミスが発生することもあつた。クラウド事業を手掛けるウフル（東京）の支援を受け、大手クラウドサービスを

活用した仕組みを構築した
国内外の卸売店からエポン
側への架電に自動音声が応答
し、各担当者に自動で振り分け。
クラウド上では顧客情報
や注文履歴、在庫状況などが
ひも付けられており、担当者は
デスクトップ画面で情報を
確認しながら対応できる。

「営業担当が本来の業務に専念できる環境になつた」とメ リットを語る。



④新たに導入された工作機械を点検するアサヒ
プレシジョンの社員=長岡市
⑤製造設備の異音をAIが検知する「Otomo」

サブスクリプション（定額利用）での利用を見込み、2026年に県内企業への本格導入を進める考えだ。本体は小型で設置に特別な工事は必要ない。品田拓朗副社長は「中小企業が手頃に導入できるようにしていきたい」と話している。